

平成19年度森林総合研究所四国支所研究評議会報告

外部の有識者から四国支所の研究活動や業務運営に関して意見をいただき、今後の活動に反映させていくために開催しているものです。

日時：平成20年 3月 7日（金） 13：00～16：00
場所：森林総合研究所四国支所 会議室

1. 評議会委員及びオブザーバー（敬称略） 評議会委員

大西 庸子	木庸社代表
塚本 次郎	高知大学農学部准教授
本多 照昌	前愛媛県林業経営者協会会長
オブザーバー	
多田 弘之	四国森林管理局計画部 指導普及課長
松岡 良昭	高知県立森林技術センター 技術次長

2. 議事次第
- 1) 開会挨拶
 - 2) 出席者紹介
 - 3) 支所説明
 - (1) 概要説明
 - (2) 研究の実施状況と成果
 - 4) 業務運営及び地域ニーズに関する意見交換
 - 5) 講評
 - 6) 取りまとめ（支所長）
 - 7) 閉会

3. 委員及びオブザーバーの意見・指摘事項と対応方針

項目	指 摘 事 項	対 応 方 針
研究推進に ついで	・強度間伐等の研究において葉量回復の多点調査を含め、3年間の研究では難しいのではないかと。また、この課題に盛り込まれていない研究課題も多くあると思われるので、研究内容を膨らませ、研究期間を長くできないか。技術的裏付けなしに、事業が実施されている実態もあるので・・・。 ・最近、CO2取引が話題となっているが、森林のCO2吸収・固定をお金に換算して間伐費用に充てる等の方法は、今後検討できないか。また、ビジネスとして形成された場合、誤ったお金の動きが出ることが危惧される。	・通常外部資金等も、研究期間を3年とするものが多くなっており研究期間の長期化は難しいが、今後、本所上層部にご意見はお伝えしたい。 ・CO2吸収量の把握・計算方法は進んでいるが、それをどうするかまでは決まっていない。日本は消極的だが、産業界からの後押しはある。また高知県では企業から森林管理資金を出してもらいそれに証書を発行している。

	・スギの新生産システムはできつつあるが、研究機関からも木材の流通・利用・用途開発について研究を進めて欲しい。 ・四国支所のミッションは「四国支所」を除くとどこでも使える。サブミッションを作り地域の特色を生かした、地域独自のミッションを作ってはどうか。 ・国立研究所では基礎研究をやるのも大事ではあるが、林業が衰退していく中で、民間活力を利用した、応用研究についても研究をお願いしたい。	・本所を通じて木材利用・開発面の研究を進めていきたい。 ・本支所職員が研究課題を分担し、四国支所研究員が一つの課題を担当する体制をとっていない。今後検討するが、短く表現することが難しいことと、職員がこの精神で研究に取り組むことをご理解いただきたい。 ・木材利用部門は本所にしか置かれていない。ご要望は本所に伝え、本所とともに検討する。
研究 成 果 の 活 用 ・ 普 及 に つ い て	・支所への案内看板がない。また地図にも倍率を高くしないと「四国支所」の名前が出てこない。地道な研究は一般の人には、認知度が低いのでもっとPRする必要がある。	・支所入口信号機に案内看板を要望しているが、警察からなかなか許可がでない。屋上に名前の看板を作成する予定（3月17日設置）。広報誌、セミナー、一般公開などを通じ、なお一層の研究成果の普及に努力する。
地 域 連 携 に つ い て	・四国では林業技術開発会議を行っているが、県・管理局などの各機関との横の連携により、四国全体で情報を交換しながら、共通テーマとして、「流通」・「シカ害」等に関する課題設定・研究ができないか。 ・シカの食害・針広混交林ではお世話になっています。森林環境教育でも調査支援のご協力をお願いします。	・関中ブロックでは従来の部会を解散して問題別の部会が作られている。関西林試協等に「流通問題」・「シカ食害」の専門部会を設けること等も検討したい。 ・今後も、県の行政部局や森林技術センターとの協力関係を深めていきたい。